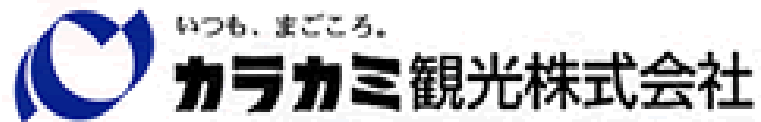


2008年3月期 中間決算説明



経営理念

あたりまえのことをあたりまえに

- ・ 当リゾートホテル業界に関しましては、本州地域に景気回復傾向がみられるものの、基盤である北海道内は依然として個人消費等の回復は遅れており、各ホテルの売上の拡大は期待できず、ますます厳しい状況が続くと思われまます。
- ・ 当社グループといたしましては、「あたりまえのことをあたりまえに」をモットーにして、安全で安心のできるお客様へのサービスをご提供したいと考えております。また、さらなる経費削減と社員の能力向上を図り、収益性の高い企業構造への転換を積極的に推し進めてまいります。

半期業績の概要

- 当中間期(平成19年4月から平成19年9月まで)におけるわが国経済は輸出関連や素材産業の業績の改善に伴い景気は回復基調を維持しました。個人消費も所得、雇用の環境好転に支えられ順調でした。
- しかしながら、地元北海道の景況は総じて厳しい状況が変わらず、消費も伸び悩みました。観光業界では来道客数に明るさが見えたものの、他観光地との競争による客単価の低下圧力が払拭されませんでした。
- このような状況のもと、当社及び当社グループは、原点に帰った強い営業、サービスの向上、魅力ある宿泊プランの提供、積極的CM展開等に注力し、幅広い層からの支持を受け、全体で前期並みの集客数を維持することができました。売上高は124億円、前年同期比+4.2%を計上しました。
- 平成19年2月に傘下に入ったホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪)の売上、利益がプラスに寄与しております。
- 一方、経費は原価、販売管理費とも施策的な抑制効果により、中間期の収益は、営業利益、経常利益とも前年を上回る水準で推移しました。

業界動向の見通し

- 国内旅行者数は落ち込むことなく当面横ばいと見ます。海外渡航の旅行者は不透明ながらも増加傾向は続きますが、国内市場を追い込むことにはなり得ません。一方、外国からの観光客は鮮明に増加する傾向です。中でも北海道は特に期待できます。洞爺湖サミット効果もプラスとなり、多少の振れはありますが上昇トレンドを享受することを想定しています。
- 業界内での競合は、観光ホテルの新規大型投資は考えにくく、一方で業績不振ホテル、老朽化ホテルの淘汰が進み、長期的に需給は徐々に緩和される見通しです。それまで生き残りをかけての消耗戦は続くと思われれます。
- 多業態との競合に関しましては、温泉の魅力は褪せないものの、特にファミリー層のレジャーにおける安・近・短施設(日帰りスパに限らず多様なアミューズメント施設)の集客力がますます脅威になってまいります。
- 価格面の留意点としましては、一度経験したデフレ、及びインターネットで料金をメインに種々の情報が瞬時に分かることなどから更に厳しい低下圧力があります。
- 総じて地域、個々のホテルの個性、魅力ある企画力などが今後大きな課題であり、成否の分岐点になります。同時にITやインターネット関連の投資とその活用が販路拡大、経費の効率化にとって一層重要になるものと考えております。

経営の課題と対策(1)

売上と消費単価

- 売上の拡大を図るため積極的に入込人員増加策を推進します。予約動向のチェック、宿泊単価の機動的な見直しを、迅速に正確に行います。こうした行動を常時継続できるよう連携できる体制づくりが必要です。
- サービスのさらなる向上と、もてなしの魅力づくりを掲げ、ホテルごとに特色を打ち出して、幅広い客層の需要掘り起こしを図ります。あらゆる集客の機会をムダにしないことで増収を図ります。
- また、宿泊プランにおいて、チェーン共通のもの、各地域の特色を出すもの、それぞれの企画をバランスよく推進することが必要です。また定期的、季節的な企画も採算性と販促性をしっかり見極めます。
- 館内消費アップの施策は、社員全員が意識を持つことにより、別料理の販売や館内飲食店利用のセールスを強化していくことを第一に取り組みます。とりわけ低単価の顧客の付帯売上対策が重要です。
- 売店売上増のため、店頭豊富な品揃えや、季節感、客層に応じたきめ細かい入れ替えを行い、販売機会を逃さないようチェックしていきます。



経営の課題と対策(2)

北海道観光の国際化対応

- 北海道観光の国際化を早くから見込んでおり、台湾、韓国、中国などでプロモーション活動を行うなど外国人観光客の集客に取り組んでおります。
- 食事メニューに工夫を凝らし、台湾以外の諸外国からのリピーターを取り込みます。



本州での積極投資

- 景気の回復が見込めない北海道ではハード面での大型投資は慎重になります。道内はソフト面、各ホテルのサービス向上と魅力づくりが優先です。
- 現在、売上高の約45%が道外ホテルです。首都圏のビジネスホテルが高い稼働率を続けている他、2005年に傘下に収めた、南紀白浜のコガノイベイホテル、ホテル古賀の井も堅調です。2006年12月には大阪市のベイエリアにある21階建てのホテルコスモスクエア国際交流センターを買収し、19年度からフルに収益に寄与します。
- 今後も良いチャンスがあれば積極的に買収を検討してまいります。

経営の課題と対策(3)

経費の節減

- 安定的な収益の成長のため、人件費、光熱費、消耗品を厳しくチェックします。特に現場をよく見る、食材等の価格調査を怠らないなどの体制を維持します。変動費、固定費の分析を進め、変動費率を高めることが課題です。
- 施設の維持、清潔感、安全性に最大の配慮を図るため、修繕、改修は柔軟に計画的に対処します。スペース等に無駄がないよう効果を出すため、前記同様、顧客の意見を聞く、現場をよく見る、現地調査を怠らないなどの体制を維持します。

リスク管理

- 当社及び当社グループの事業に関するリスクについて、発生の可能性を認識したうえで、回避及び発生した場合の迅速な対応に努める所存です。主な事項は下記です。
- 噴火災害・温泉枯渇・減損会計



決算概要

連結 金額単位：百万円

	2006年9月期	2007年9月期	比較
売上高	11,865	12,361	4.2%
営業利益	763	851	11.5%
経常利益	587	598	1.9%
中間純利益	259	375	44.7%
1株当たり 中間純利益	29円93銭	43円30銭	13円37銭

財政状態

連結 金額単位：百万円

	2006年9月期	2007年9月期	比較
総資産	49,746	52,328	5.2%
純資産	12,867	13,025	1.2%
株主資本比率	25.5%	24.5%	△1.0 ^{ポイント}

連結キャッシュフローの概要

金額単位：百万円

	2006年9月期	2007年9月期	比較
営業キャッシュフロー	784	1,086	212
投資キャッシュフロー	△63	98	161
財務キャッシュフロー	△1,414	△449	965
現金及び現金同等物の期末残高	3,824	4,777	953

セグメント別実績

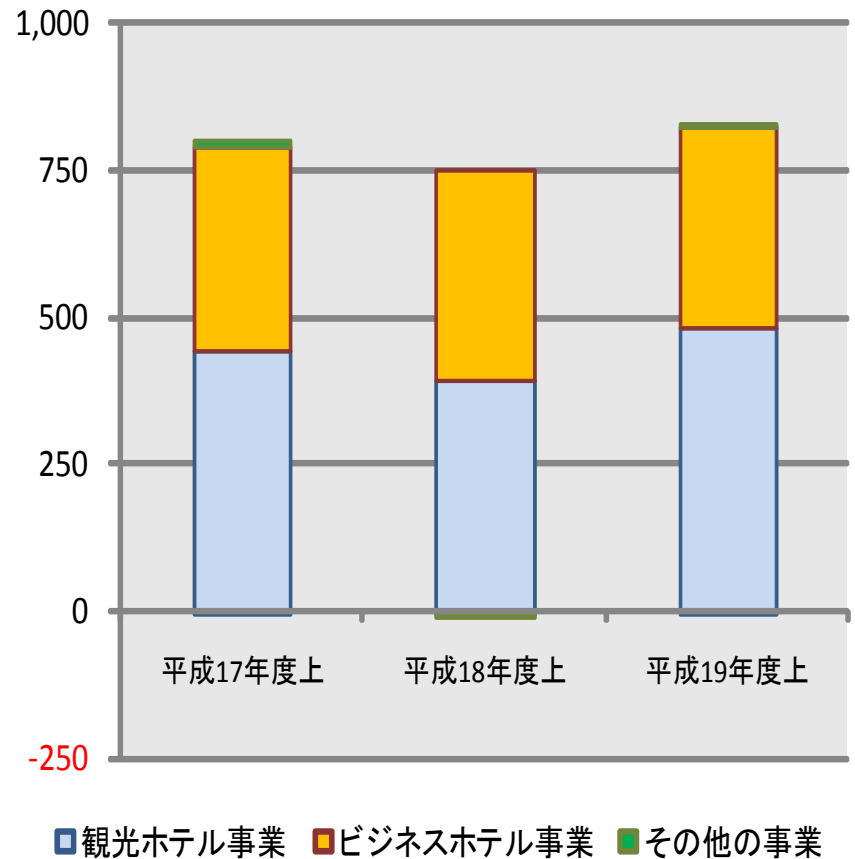
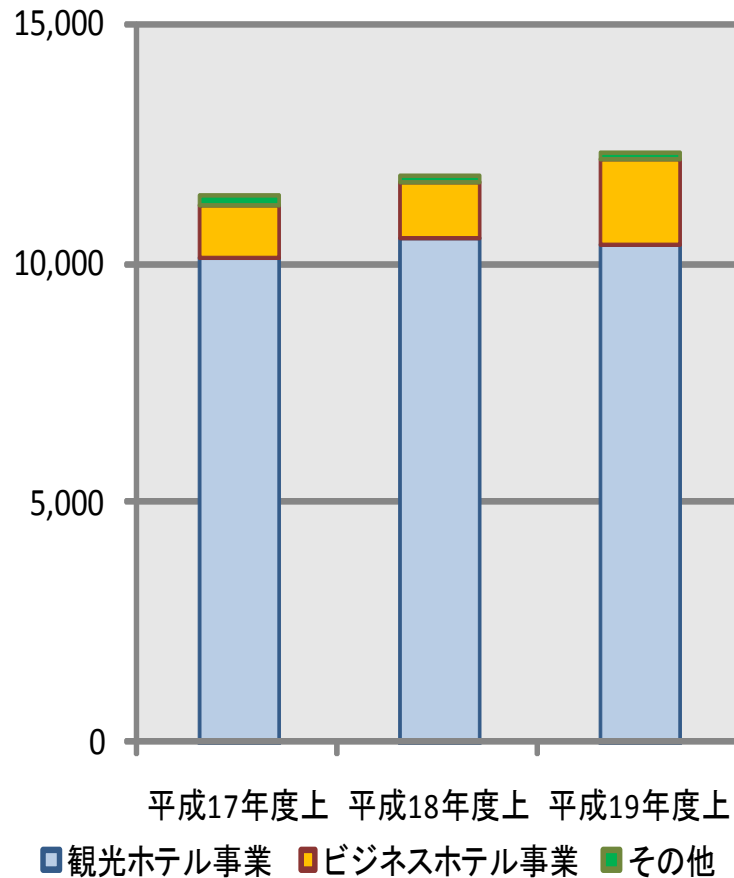
事業の種類別情報(中間期)

売上高

百万円

営業収益

百万円



地区別收容実績

地区	事業所数	2005/9/30 平成17年度	2006/9/30 平成18年度	2007/9/30 平成19年度	前年 同期比	2007/3/31 H18年通期
定山溪地区	1	191	182	194	12	369
洞爺地区	2	245	240	237	△ 3	421
阿寒地区	3	197	195	161	△ 34	367
仙台地区	2	112	105	105	0	233
白浜地区	4	83	127	134	7	235
首都圏・大阪地区	3	70	74	126	52	158
合計	15	898	923	957	34	1,783

単位:千人

事業所一覧

ホテル名	室数	収容人員	所在地
定山溪ビューホテル	647	2,650	札幌市南区定山溪温泉東2丁目111
洞爺サンパレス	453	1,850	有珠郡壮瞥町字洞爺湖温泉
ニュー阿寒ホテル	370	1,531	釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8番8号
洞爺パークホテル天翔	280	1,326	虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉38番地
ホテルエメラルド	206	912	釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6番5号
ホテル瑞鳳	118	853	仙台市太白区秋保町湯元字除26-1
秋保グランドホテル	140	724	仙台市太白区秋保町湯元字枇杷原12-2
ホテル古賀の井	103	553	和歌山県西牟婁郡白浜町3753
コガノイベイホテル	172	507	和歌山県西牟婁郡白浜町3212-1
阿寒ビューホテル	217	426	釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目1番7号
白浜シーサイドホテル	91	389	和歌山県西牟婁郡白浜町3750-2
ホテル川久	88	320	和歌山県西牟婁郡白浜町3745
晴海グランドホテル	215	430	東京都中央区晴海3-8-1
川崎グランドホテル	70	110	川崎市川崎区宮本町6-2
コスモスクエア国際交流センター	320	566	大阪市住之江区南港北1丁目7-50

株主分布

単位：千株

区分	2005/9/30 平成17年度	2006/9/30 平成18年度	2007/9/30 平成19年度
個人	2,979	2,619	2,117
法人	5,682	6,042	6,543
その他	9	9	10
合計	8,670	8,670	8,670

地域	2005/9/30 平成17年度	2006/9/30 平成18年度	2007/9/30 平成19年度
北海道	3,323	2,911	2,404
東北	2	2	2
関東	5,320	5,737	6,243
中部	2	4	4
近畿	20	13	14
中国・四国・九州	3	3	3
その他	0	0	0
合計	8,670	8,670	8,670

単位：件

区分	2005/9/30 平成17年度	2006/9/30 平成18年度	2007/9/30 平成19年度
個人	943	968	1,045
法人	78	74	74
その他	1	1	1
合計	1,022	1,043	1,120

地域	2005/9/30 平成17年度	2006/9/30 平成18年度	2007/9/30 平成19年度
北海道	296	293	326
東北	63	58	67
関東	238	230	245
中部	75	80	77
近畿	284	314	330
中国・四国	63	64	72
その他	3	4	3
合計	1,022	1,043	1,120

本資料に関するお問い合わせ

カラカミ観光株式会社
経営企画室

TEL(011)598-3225
札幌市南区定山溪温泉東2丁目111